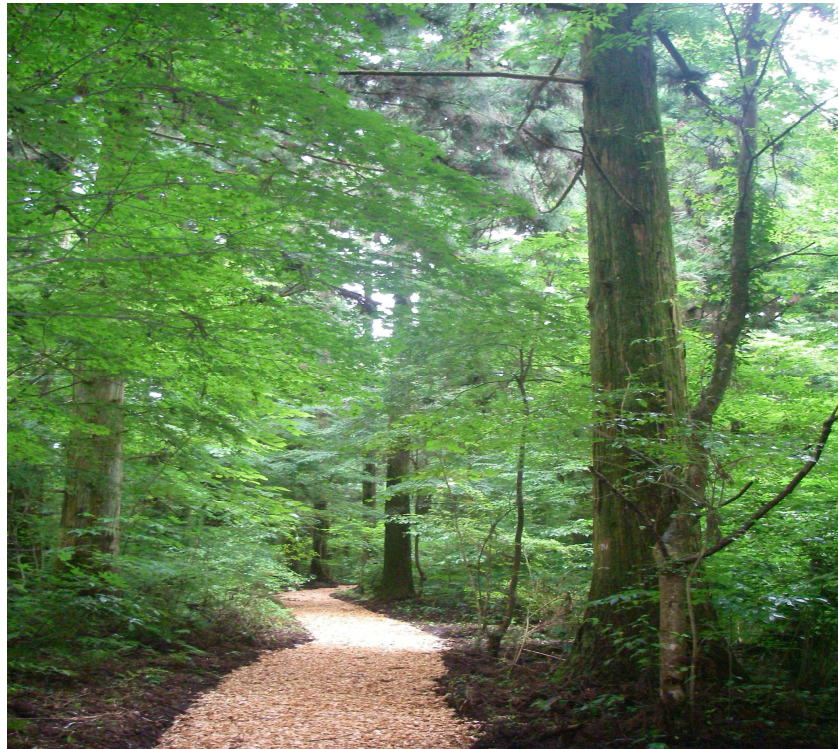




## エコアクション21

# 環境活動レポート 平成20年度

(期間：平成20年4月～平成21年3月)



平成21年5月発行

九州林産株式会社



このシンボルマークは、九州電力グループが取り組む4つの事業領域(総合エネルギー事業、情報通信事業、環境・リサイクル事業及び生活サービス事業)を「4つ葉のクローバー」でデザインしたもので、クローバーの茎は、Energy、Ecolgoyなどの「e」を意味し、九州電力がグループ全体の事業活動を通じて環境活動を推進していく姿勢を表現しています。



## 1 環境方針

九州林産株式会社は、次の「環境方針」に基づき環境保全活動に取り組んでいます。

### 環境方針

#### 【基本理念】

九州林産株式会社は、「自然を守り、緑豊かな環境づくり」という企業理念のもと、すべての事業活動において環境保全意識の重要性を認識し、豊かな社会とより良い地球環境の実現を目指します。

#### 【基本方針】

- (1) 環境保全に関わる法関連規制の遵守により、社会的責任を遂行します。
- (2) 循環型社会の形成を目指して、エネルギーや資源の有効利用、廃棄物の再資源化により、環境負荷の低減に努めます。
- (3) あらゆる環境課題に積極的に取り組み、継続的な環境活動を通して、広く社会に貢献します。
- (4) 環境情報を積極的に公開し、社会とのコミュニケーションを図ります。
- (5) 環境方針、環境目標、環境活動計画を全従業員に周知します。

制定日 2007年12月14日

九州林産株式会社

代表取締役社長 松井 茂

なお、当社の環境方針は「九州電力グループ環境憲章」と整合を図り定めています。

### 九州電力グループ環境憲章

九州電力グループは、持続可能な社会の実現を目指して、グローバルな視点で地球環境の保全と地域環境との共生に向けた取組みを展開します。

1. 地球環境問題への適切な対応と資源の有効活用に努め、未来につなげる事業活動を展開します。
2. 社会と協調し、豊かな地域環境の実現を目指した環境活動に取り組めます。
3. 環境保全意識の高揚を図り、お客さまから信頼される企業グループを目指します。
4. 環境情報を積極的に公開し、社会とのコミュニケーションを推進します。



## 2 事業の概要

(1) 事業者名及び代表者氏名

九州林産株式会社

代表取締役社長 松井 茂

(2) 所在地

〒815-0041 福岡市南区野間3丁目7番20号

(3) 環境管理関係の連絡先

環境管理責任者 : 総務部長 香田 啓市

環境管理担当者 : 総務部経理企画課 横内 博史

連絡先 : 092-562-3013

(URL: <http://www.q-rin.co.jp>)

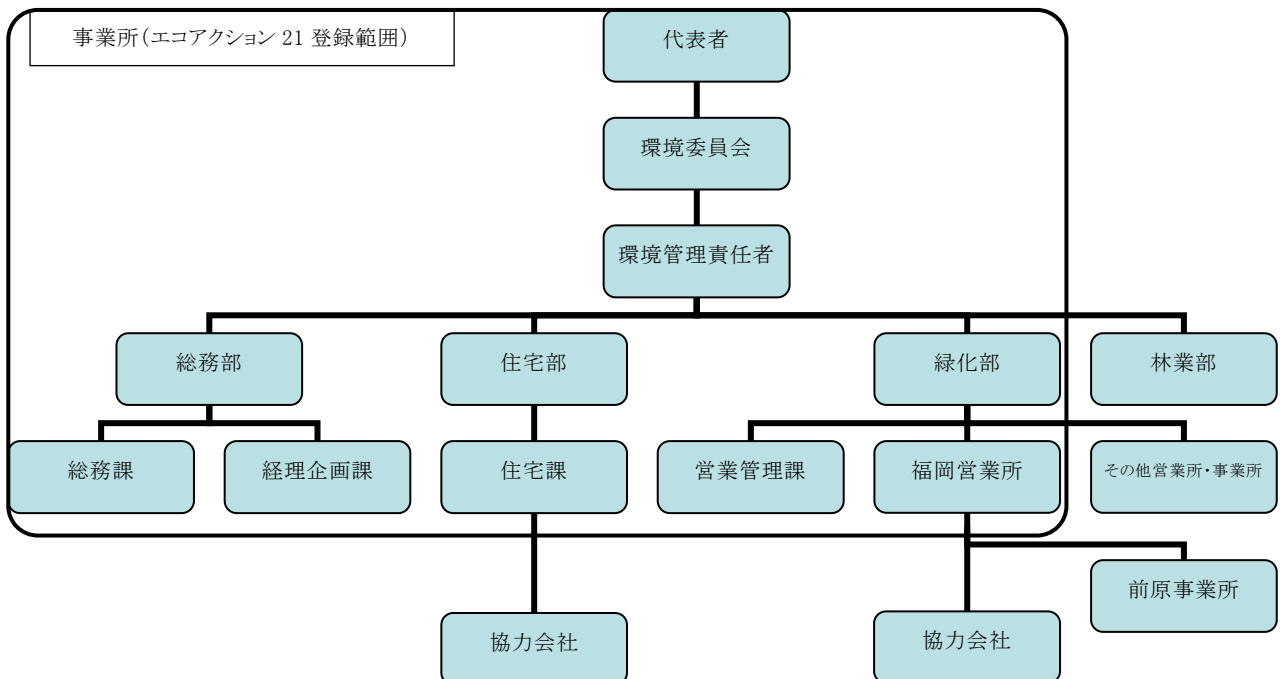
(4) 主な事業内容

造園工事業、土木工事業、とび・土工工事業及び建築工事業

(5) 事業の規模

	単 位	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
売上高(全社分)	百万円	2,598	2,829	2,679
従業員数	人	42	40	38
床面積	m <sup>2</sup>	1,894	1,894	1,894

(6) 対象組織



注) 登録範囲については本店ビル(総務部・住宅部・緑化部および福岡営業所)のみ、「その他営業所・事業所」、「前原事業所」および「林業部」については、次回中間審査までに適用予定。



### 3 中期目標(平成 21 年度～平成 23 年度)

中期目標については、平成 20 年度実績をベースに以下のとおり定めました。

#### 【中期目標(平成 21 年～平成 23 年)】

項目	単位	平成 20 年度 (実績)	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
二酸化炭素排出量	kg-CO2	501,534	20 年度実績 以下	20 年度実績 以下	20 年度実績 以下
廃棄物リサイクル率	%	70.9	75	82	90
上水使用量	m <sup>3</sup>	2,275.5	20 年度実績 以下	20 年度実績 以下	20 年度実績 以下

### 4 平成 20 年度環境目標及び具体的取組み内容

項目		目標	具体的取組み内容	
地球環境問題への取組み	オフィス電力使用量	前年比同量以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>不要な電源(パソコン・プリンタ等)の OFF</li> <li>昼休み消灯</li> <li>エアコン調整</li> </ul>	
	自家物流輸送 (特殊車両等を除く)	低公害車 導入比率	50%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>車両更新時における積極的な低公害車の導入</li> </ul>
		燃費消費 率(燃費)	11km/ℓ以上 (2010 年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコドライブの徹底</li> </ul>
	機器点検時の規制対象フロン 回収実施率	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>機器点検時の確実なフロンガス回収の徹底及び代替化の推進</li> </ul>	
	用紙使用量	前年比同量以下	<ul style="list-style-type: none"> <li>両面印刷の励行</li> <li>裏面使用による使用量削減</li> </ul>	
	上水使用量	前年比同量以下 (特殊分 289 m <sup>3</sup> 除く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各人の節水意識の向上</li> </ul>	
循環型社会への取組み	リサイクル率	産業廃棄物	95%程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>産廃物のリサイクル推進</li> </ul>
		古紙	100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>九州環境マネジメント㈱への古紙回収の徹底</li> </ul>
	グリーン調達	事務用品グリーン 購入率 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務用品のグリーン調達の徹底</li> </ul>	
	一般廃棄物 (定性目標)	一般廃棄物減量 の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reduce Reuse Recycle(ゴミを減らす・再使用する・リサイクルに出す)の徹底</li> </ul>	



## 5 平成 20 年度環境活動の実績及び評価

### (1) 実績(全社分)

項目		環境目標	単位	目標値	実績値	対目標	
地球環境問題への取組み	二酸化炭素排出量	—	kg-CO2	—	501,534	—	
	オフィス電力使用量	前年比同量以下	kWh	316,658	313,129	▲1.1%	
	自家物流輸送 (特殊車両等を除く)	低公害車 導入比率	50%以上	%	50	56.3	+6.3%
		燃費消費 率(燃費)	11km/ℓ以上 (2010年度)	km/ℓ	11.00	11.07	+0.6%
	機器点検時の規制対象フロン回収 実施率	100%	%	100	—	—	
	用紙使用量	前年比同量以下	枚	725,784	782,784	+7.9%	
上水使用量	前年比同量以下 (特殊分 289 m <sup>3</sup> 除く)	m <sup>3</sup>	1,387.9	2,275.5	+64.0%		
循環型社会への取組み	リサイクル率	産業廃棄物	95%程度	%	95	70.9	▲24.1%
		古紙	100%		100	97.4	▲2.6%
	グリーン調達	事務用品グリー ン購入率 100%	%	100	63.8	▲36.2%	
	一般廃棄物 (定性目標)	一般廃棄物減量 の推進	kg	—	6,356.1	—	

### (2) 評価(全社分)

#### ①二酸化炭素排出量

- 電力使用量の減少や社有車の燃費効率の向上により、昨年度実績から約 44,000kg-CO2 減少した。冷暖房の温度管理や社有車の効率的な運転管理を引き続き実施する。

#### ②オフィス電力使用量

- 昼休みの照明消灯や冷暖房の適温化などの取組みを実施した結果、目標を達成できた。パソコン・プリンターなどの不使用时及び帰社時の電源オフや空調機器設定温度の徹底による節電を継続的に実施する。

#### ③自家物流輸送

- 低公害車導入比率は、車両入替え時に随時導入した結果、目標を上回った。今後も車両の更新時において積極的に導入していく。
- 社有車に啓蒙ステッカーを貼付するなどエコドライブの意識付けを徹底した結果、期間中の燃費は目標を上回った。今後も CO2 削減に向けて一層の取組みを行う。



#### ④機器点検時の規制対象フロン回収実施率

- ・ 湯布院事務所において、空調機器を取り替えたが、フロン残量は計測できなかった。今後も、引き続き機器点検時の確実なフロンガス回収の徹底を推進する。

#### ⑤用紙使用量

- ・ 両面印刷及び裏面使用等の徹底を図ったが、全社的な業務量増加に伴い使用量は増加した。今後は、電子媒体を活用したペーパーレス化なども推進し省資源化に取り組み、環境負荷の低減に努める。

#### ⑥上水使用量

- ・ 上水使用量については、20 年度から実績値の集計を開始した事業所があり、また、水産事業所でのワサビの洗浄作業などの増加要因により、目標を大幅に下回る結果となった。今後も引き続き節水に取り組み、削減を図る。

#### ⑦リサイクル率

- ・ 産業廃棄物は、リサイクル不能分が当初想定していた割合より多く、リサイクル率は目標を下回った。21 年度は、リサイクル率 75%を目標に分別を徹底し、リサイクル率向上に努める。
- ・ 古紙については、一部事業所で行っていなかったため、わずかに目標未達であった。21 年度は、指導徹底を図り、100%リサイクルを目指す。

#### ⑧グリーン調達

- ・ 20 年度上期まで事務用品以外の物品購入データが含まれていたこともあり、目標未達成の結果となった。21 年度は、全社的に電子カタログ購買システムを利用し、グリーン調達率 100%を目標とする。

#### ⑨一般廃棄物

- ・ 20 年度から全社のデータ集計を実施した。21 年度は、リサイクル可能物の分別徹底に取り組み、一般廃棄物の減量を推進する(21 年度目標値設定:6,356.1kg 以下)。

## 6 環境関連法規への違反、訴訟などの有無

### (1) 適用となる主な環境関連法規

適用法規	該当する活動
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	<ul style="list-style-type: none"><li>・一般廃棄物及び産業廃棄物の排出</li><li>・廃棄物排出の際の適正処理(委託契約書、適正保管及びマニフェスト発行など)</li><li>・マニフェストの管理及び報告</li></ul>
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	<ul style="list-style-type: none"><li>・解体で生じる建設特定資材廃棄物の再利用</li><li>・下請負人への適正な指示</li></ul>

### (2) 違反、訴訟など

- 当社の事業活動に係わる環境関連法規の順守状況を確認した結果、違反はなかった。また、関係機関などからの指摘、利害関係者からの訴訟もなかった。



## 7 「ふくおか減 CO2 自慢大作戦 2008」で優秀賞を受賞

九州林産株式会社は、大分県くじゅう地区を中心とした約 4,400ha(ヤフトーム約 630 個分)の九州電力社有林(※FSC 認証森林)を管理しています。これは大正の末期に一面の原野であったこの地に、水力発電の水源涵養林の目的として植林し、現在の大面積の森林が生まれたものです。

2005年4月から、この森で育まれるスギやヒノキを使った木造住宅事業(九州林産の家)を開始しました。この住宅は輸入材や合板を一切使わず、森から生まれる国産の無垢材のみを使用し、「強くて長持ちする住まい」「健康的な住まい」「環境にやさしい住まい」という特徴を有しています。

2008年3月には、これまでのFSC認証森林から住宅用木材に使用されるまでの生産・加工・流通過程の適切な管理に加えて、住宅建築のFSC追加認証を受け、森林育成から住宅建築まで自社で一貫した管理体制を構築しました。

こうして、適正に管理された健全な森のサイクルを守りながら、「地産池消」の考え方を大切にし、ウッドマイレージの削減に大きく貢献しています。



弊社は、FSC認証森林の管理から木材の加工・流通・住宅建築まで自社で一貫した管理体制のもと、外材や合板などは一切使用しないで国産無垢材のみを使用した住宅づくりを実施しており、その過程ごとに適正に管理しています。また、骨太材や厚板の使用や合理的な構造などにより、「100年生きる家」を目指しており、建替えサイクルの長い「長寿命住宅」ということで、さらにCO2削減に貢献しています。

このような取組が認められ、平成20年11月に福岡県地球温暖化防止活動推進センター主催の「ふくおか減 CO2 自慢大作戦 2008」において、優秀賞を受賞することが出来ました。

弊社では、今後とも人と地球環境にやさしい住宅「九州林産の家」の普及に大いに努力していく所存です。

※ FSC (Forest Stewardship Council: 森林管理協議会) 認証

- ・ 森林及び林産物の認証機関の評価・認定・監督を独立して行う非営利・非政府の国際組織より、適切な森林管理が行われていること審査・証明する制度。九州電力社有林は平成17年に認証取得。